第６回「ふくまる夢たまごセミナー」

日　時　12 月 17 日（金）18：00～20：00

場　所　市庁舎７階大会議室

内　容　学校の「安全対策」について

～　防犯意識を高めるために　～

講師　池田市立北豊島小学校　校長　小林　弘典　氏

「学校の『安全対策』と聞いて、皆さんは何を連想しますか。」

（塾生の連想）子どもへの安全教育、災害時の対応の仕方、避難訓練、警備員さん、通学路に立っている保護者や地域の方、防犯・防災訓練、新型コロナウイルス感染症対策の消毒や手洗い・・・・・

「皆さん、それぞれイメージが違うと思います。学校の先生方に同じことを聞くと、避難訓練とか遊具の安全点検とか不審者対応訓練など、そんなことをイメージされます。安全対策と言っても不審者のこともあれば火災のこともあるし地震のこともあるし、日々の保健のこととかいろいろな安全があるので、広く学校の安全対策と言っても多岐にわたっています。」

小林校長先生の経験談をもとに、安全安心という学校教育の根幹に関わるセミナーが始まりました。

池田市立学校園の安全対策の現状として、

①危機対応マニュアルの作成、見直し、修正
②防犯訓練（不審者対応訓練）の実施
③小学１年生に「防犯ブザー」を配付
④学校警備員 ⇒ スクールガード・リーダーの配置
⑤モニター付インターフォン、オートロック等の設置
⑥子どもの目線による「地域安全マップ」づくりの推奨
⑦ＩＣタグを活用した「登下校時刻確認システム」の導入
⇒ 防犯カメラの設置

を紹介されました。

グループワークでは、実際にあった中学校への不審者侵入事案をもとに問題点や改善点を協議していきました。

塾生からは、「外部からの侵入者に対するマニュアルを徹底しておく。」「教師間の連携体制を整えておく。」「マニュアルを子ども達にも伝えておく。」「外から入ってくる人に対して挨拶や声掛けをする。」「教室での教師の立ち位置を考える。」「いざという時のために笛を携帯しておく。」等、普段から心掛けておくべきことが発表されました。

小林校長先生からは、「学校組織としてマニュアルを整備し、いざという時に対応できるよう共通理解しておくことは当然です。しかし、パニック状況の中では、思ったように行動できないし声も出ません。対応訓練を通して、児童生徒をどう誘導するのか、教師はどのような動きを取るのかを確認するとともに、常日頃から非常事態を想定しておかないと体は動きません。これは不審者事案に限ったことではありません。」と解説の後、教師の立ち位置について次のような指摘がありました。「先生方は授業をする時、普通に廊下側に背を向けて板書をしたり、子ども達とやり取りをしたりしています。背中を向ける瞬間があるのは仕方ありませんが、何かが起こった時に、すぐに教室の外に視線を移せる状況を作り出すために、体を開く立ち位置での授業を意識してください。」

協議を通して、普段から担任・教員としてできる安全対策を以下の７点にまとめられました。

① 校内では名札の着用を徹底する。名札をしているということは所属意識を外に見せるということです。

② 笛、ペン等を常時携帯する （笛は名札に付ける)。 ペンとか書き物を持っておくことは、いざという時に記録するために有効な手段です。それと最後の最後、自分を防御するのにも役立ちます。1本のペンが命を救うことになるかもしれません。

③ 校内で出会う人には、必ず挨拶（会釈）をする。※ 不審な人物には「何かご用ですか？」等の声をかける。

④ 校内では運動靴を着用する（草履やスリッパはダメ)。何かあった時に走ることができる。

⑤ 教室は、できる限り閉めきらず開放しておく。中から外が見えるようにしておく。

⑥ 教室には、不審者撃退用の棒などを置いておく。直接対峙するような時に距離を保つことができます。

⑦ 教室等の出入口に背中を向けている時間をできるだけ少なくする。

最後に、「子どもたちが、毎日安全に安心して学校生活を送ることができるように、教師は防犯等に関する高い意識を持ちあわせておく必要があります。『子どもの命を守ること』は、教師として最も大切な仕事（使命）であることを強く心に留めておいてください。」と結ばれました。

【塾生の感想より】

○教師という仕事をする上で、子どもが安全に安心して過ごせるよう普段からできる対策を徹底し、意識をしっかりと持つ必要があると考えました。毎日を当たり前に過ごすのではなく、安全に一日を終えることができるよう意識したいと思いました。現場実習でも、いつ何が起こるかわからないということを考え行動したいと思いました。

○今回のセミナーの中で、私が身にしみて大切だと感じたのは「普段から対策を

行う」という点です。日々のマニュアルチェックや児童への指導、器具の点検等が、児童にとって安心して学習ができる学び舎につながると痛感しました。自分自身、教員を志す者として安全については人一倍意識を持っていたつもりでしたが、今回のお話を聞き、いくら意識を持っても万全は難しく、皆で声を掛け合い取り組むことの大切さを感じました。

〇安全対策のひとつに挙げられていたＩＣタグは、私自身小学校の時に身につけていた記憶があります。当時はどうしてつけているのか分からず、外したりランドセルから出したりしていましたが、十数年越しにその役割・重要性を理解できました。多くの安全対策についても言えることですが、その対策の背景に何があるのか、どのような意図があるのかを知っておくことが何より大事なのではないかと感じました。お話の中で、「設備だけでは足りない。最後は人の目。」と仰っておられたように、対策しているからと甘んじず、安全の意識を持ち続けることが何よりの安全対策だと思いました。

〇今日のお話を聞いて、子どもの命を守ることが教師の使命であり、子どもの命を預かるという大変重要な仕事に就こうとしているという意識を改めて強めることができました。不審者対応のために、訓練やマニュアルの徹底だけでなく、普段から教室外に意識を向けたり所持品の確認をしたりなどできることはたくさんあると知ったので、自分だけでなく周りに発信できるような人になりたいと思います。